

九州大学の活動報告

医工連携を軸とした

国際遠隔医療教育プログラムの開催

今年2月7日からの21日間、九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センターでは、医工連携を軸とした国際遠隔医療教育プログラムの基盤構築と将来設計のため、アジア5カ国より引率者2名を含む優秀な若手人材12名を招へいし、九州大学を拠点とした医療機関で研修を実施する事を予定しておりました。しかしコロナ感染症が全世界的に拡大し、その中止を余儀なくされました。



清水 周次
(九州大学副理事)

そこで今回、来年度の招へい実施時の交流の効果を最大化することを目的として、2月2日に、カザフスタン、キルギスタン、モンゴル、ブータン、フィジー5カ国の招へい予定施設を全て接続したオンライン交流カンファレンスを実施する運びとなりました。

その中で今回、来年度の招へい実施時の交流の効果を最大化することを目的として、2月2日に、カザフスタン、キルギスタン、モンゴル、ブータン、フィジー5カ国の招へい予定施設を全て接続したオンライン交流カンファレンスを実施する運びとなりました。

プログラムは以下の通り

13:00-13:05	開会の挨拶	九州大学病院
13:05-13:15	フィジー	フィジー国立大学
13:15-13:25	ブータン	ブータンケザールギャルボ医科大学、地域医療中央病院、情報通信省
13:25-13:35	モンゴル	国立モンゴル医科大学付属モンゴル日本教育病院
13:35-13:45	キルギス	国立循環器病内科センター
13:45-13:55	カザフスタン	国立がん研究センター
13:55-14:05	プログラムの概要	九州大学病院
14:05-14:25	討論	
14:25-14:30	閉会の挨拶	九州大学病院

各国それぞれ10分程度、医師と技術研究者より各施設の医療と情報通信に関する現状について発表をお願いするとともに、当方からも招へいプログラムの概要説明を行いました。相互理解を深める有意義な時間となりました。研修内容に対する意見や要望を伺うことができたこと、またすべての施設が確実に接続され無事にプレゼンテーションができたことに今回の研修の大きな意義を感じました。オンライン交流後にアンケートを実施したところ全員からの回答を得、概ね良好であったとの意見をいただくことが出来、全員が来年の招へい参加を心待ちにしている様子が伺えました。



参加中の様子(ブータン)



参加中の様子(フィジー)



交流会後の様子(カザフスタン)

コロナ禍という想定していなかった事態に見舞われましたが、本オンラインプログラムを急遽ご計画いただきました科学技術振興機構の皆様へ深く感謝申し上げます。来年の招へい実施を弊社・招へい予定者共に心待ちにしております。